

## 二兎を追って二兎を得たい--ゼミの目標

金融は、いま数世紀に一度という大きな変革期にある。コンピューターによる完全なネットワーク化、取引のグローバル化、高度な新商品の成長、さらには電子マネーの登場など、近年の変化は著しい。このため、金融機関の概念自体も大きく変わりつつある。

こうした状況を的確に把握するとともに、制度や政策のあり方を追求することが研究会の狙いである。つまり、金融の現状を学ぶとともに、関連する理論を吟味し、そして政策を導く。これが第一の目標だ。しかし、これらの知識は必然的に陳腐化し、記憶は時間とともに薄れていく。だから、大学での勉強成果として永続性を持つのは、むしろ問題の立て方、情報や資料を収集し解析する技術、研究結果の効果的な取りまとめと論理構成力、そして説得的な提示、という一連の知的スキルを身に付けることにこそある。

こうした力量を向上させてほしいと私は学生諸君に心から願っている。それは、学生が将来就く仕事や組織の性格のいかんによらず不可欠の能力であり、またその獲得こそが真に国際性を持つ大学教育の一面だと思う。

ただ、それを自分の血肉とするには、やはり具体的なテーマの下で学生自らが一つの研究を仕上げるというプロセスを通して行う以外にはない。このため、当研究会では、研究テーマの自主設定、論点がシャープなタームペーパー作成、指定討論者制度を用いた議論の整理、などを運営上特に重視している。また、優秀な論文はインターネット上で公表し、広く批判に晒すことも行っている（湘南藤沢キャンパスのホームページ <http://web.sfc.keio.ac.jp/~okabe/> からアクセス可能）。

参加者には、二兎を追って二兎を得てもらいたい。それが研究会の目標だ。

（慶應義塾大学「塾」、一九九六年七月号）